

国立・私立大共に満足すへき成果

東大現役合格者数は全国第二位(公立高校)

平成7年度大学入試報告 進路指導部

平成7年度入試は、昨年度に続いて、極めて満足すべき成果を納め、本校生徒の実力が年々向上しつつあることを如実に証明したものと... 堅実且つ精力的な指導の積み重ねによる勝利である。

前・後期共に成功した国立大受験

国立大学入試では、東大合格が昨年度より三名増となり、公立高校での現役合格者は、昨年同様全国第二位にランクされた。

地元筑波大は、例年のごとく抜群の全国第一位の合格数であった。

北大、東北大合格も、記録更新の実績になった。全体的に難化した平成七年度入試で、東工大、千葉大、東京外語大、一橋大、お茶の水女子大など、難関国立大で多数の合格者を得た本校生の実力は、全国のトップの進学校の注目するところとなった。

国立大志向強まる

景気の低迷が長引き、不況感が定着し、受験人口の減少期ということもあって、国立大志向は、昨年以上に強まった。本校でも年々国立大受験が増加している。

理系学部への女子の進出顕著

医・歯・薬学部系統も相応の合格者を得たが、本年度は、特に現役理系女子の奮闘が目立った。女子生徒のライセンス志向、実

学志向は、不況と、とりわけ女子大生の就職難と無関係ではない。就職には理系有利とか、資格に直結した医・歯・薬・看護・医療系が有利などと言われ、理系学部への女子の進出は全国的な傾向でもあった。

私立大でも記録を更新

私立大受験でも本校生徒の実力は遺憾なく発揮された。慶応大、青山学院大、津田塾大などは、合格数・現役合格数ともに新しい記録であり、更に現役合格数で立教大、東京理科大学、早稲田大などが記録を更新した。

国立大大人気は、裏を返せば私立大の志願者減となって表れている。首都圏のある難関私立大では、昨年比で六八〇人の志願者減に... 言えるかもしれない。

しかし、油断は禁物である。本校の進路指導も更なる躍進を期して、兜の緒を締め直し、大いなる努力を継続したいと思う。

平成7年度入試 大学別合格者数

Table with columns for University Name,合格数 (合格数), 新卒 (新卒), 日卒 (日卒), 平均 (平均). It is divided into sections for 国立大学 (National Universities), 公立大学 (Public Universities), and 私立大学 (Private Universities), with sub-sections for 私立大学(1), (2), and (3).

新卒：平成7年3月卒業生 (普通科47回, 理数科24回) 本表は平成7年度入試で合格者の出た大学のみを掲載した。空欄は0である。平均は平成2~6年度入試までの5年間の合格者数の平均値である。